

さくらクォーターリー・レビュー

The Sakura Quarterly Review

順天堂大学さくらキャンパス図書新聞

Volume 6. Spring 2024

BOOK & FILM REVIEW

『池袋ウエストゲートパーク』

石田 衣良 著

(2001年、文藝春秋)

わたしが池袋ウエストゲートパーク (以下、IWGP) をはじめて読んだのは、2012年のことです。この小説シリーズの最初の物語が、クドカンこと宮藤官九郎さんの脚本、長瀬智也さんの主演でテレビドラマ化され大ヒットしたのが2000年の春なので、随分と遅いIWGPデビューです。

IWGPを読み始めたきっかけは、「IWGPコンプリートガイド」(文春文庫 2012年;現在は電子版のみ入手可能)を手にとったことでした。読み進めていくと、東京都江戸川区での小学生時代の夏休みの図書館通いの話や、幼稚園時代に自身がSFショートショートを書いた話(ずいぶん早熟だなあ)がありました。実はIWGPを読み始める以前から作家の石田衣良さんのことはR25(2000年代に東京近郊の鉄道駅で無料配布されていた情報誌)のエッセイの連載で知っていて、「随分とリズムの良い文を書く作家さんだなあ」と思っていました。IWGPは、例えば宗教2世の問題を取り扱った「神の呪われた子」(シリーズ19巻)やネットでの集中砲火を扱った「炎上フェニックス」(シリーズ18巻)など、時事ネタをうまく取り込んだ小説なので、本当は深く読むのがよい小説なのかもしれません。ですが、わたしはどちらかというと石田さんの文体を楽しむというか、登場人物らの語り口やそれらが形作る東京の裏の世界とも言えるIWGPの風景を楽しむ、いわばマンガを楽しむような感覚で読みます。単行本は3つの短編と1つの中編で出来ていて、それぞれの物語はサクッと読めるので、就寝前や夕食前、あるいは帰宅の途の電車の中でリラックスしたいときに読むことが多いです。

物語は、冒頭での主人公のマコト(真島誠)の独特な語り口での独白で始まります。池袋の果物屋の倅であるマコトが事件の背景を語り始めると、読者はIWGPの世界へすっと引き込まれます。そして、彼の盟友のキングことタカシ(安藤崇)とともに、天才ハッカーのゼロワン(ファミレスに居ついているようだが)や池袋西署の刑事の吉岡(あまりぱっとしない感じがする)など、一癖も二癖もある池袋の人たちの力を借りながら、マコトは池袋界隈でのトラブルをあざやかに解決していきます。

マコトの意外とも言える趣味は、クラシック音楽鑑賞です。といっても、家業の果物屋の店先のCDプレイヤーで、クラシック音楽のCDを聴くのです。最近流行りのサブスクやストリーミング、あるいはオーディオマニア好みの復古調のレコードで聴かないところが、わたし的にはとても気に入っています(これ

が村上春樹さんなら、レコードでの鑑賞になるのでしょうか)。それに、この情景は、だみ声の店主が働く昭和の頃の八百屋の店先でAMラジオがかかっているような、どこか懐かしさもあります。IWGPの1つの物語でマコトは何か1曲は聴くのですが、この選曲がなかなか奥深いのです。このIWGPシリーズの別の楽しみ方として、マコトの聴くCDに注目してみるのも良いのかもしれない。かくいうわたしも、カナダの天才(そしてちょっと偏屈な)ピアニストであるグレン・グールド(1932~1982)によるバッハのゴルトベルク変奏曲を聴き始めたのは、IWGPシリーズがきっかけです。作家は、小説を書く時にグールドの演奏によるゴルトベルク変奏曲を聴くようですが、わたしも、作家を見習って、原稿執筆のときによく聴く音楽になりました。こんな感じて、いろんな楽しみ方ができる本だと思います。

(医学部 枝松 裕紀)



『 Fate/zero 』

虚淵玄 著

(星海社文庫、2011年)

突然だがFateシリーズというものをご存じだろうか。Fateシリーズとは、TYPE-MOONより発売された「Fate/stay night」というノベルゲームとはじめとし、小説、アニメ、映画、スマートフォンゲームなど様々な媒体、作品によって展開されているコンテンツの総称である。スマートフォン向けRPGであるFate/Grand Orderは、FGOという愛称で親しまれリリースされて以来根強い人気を博している。きっと、作品は知らないがCMを見たことがあるという人も少なからずいるのではないだろうか。今回紹介するFate/zeroという小説はそんなFateシリーズの1つである。

簡単にあらすじを説明すると、7人魔術師たちがサーヴァントと呼ばれる歴史上の英雄を召喚し、あらゆる願いをかなえることのできる聖杯を求めバトルロワイアルを繰り広げる物語である。

この物語の特徴を一言で説明すると「とんでもなく救いのないストーリー」である。もともと、作者の虚淵玄は「魔法少女まどかまギカ」や「PSYCHO-PASS」などの人気アニメの脚本や原案などを手掛けダークな世界観を描くことで有名なシナリオライターであるが、この作品においてもその才能はいかなく発揮されている。

今回、とんでもなく救いのないストーリーと紹介したため、少し読むことを気後れしてしまう人もいかもしれないが、単なるバトルものでは終わらない重厚なストーリー(とにかく人物描写が深い!!)と、ダークな世界観だからこそ際立つ希望や登場人物たちの生き様に心を動かされること間違いなしなので騙されたと思ってぜひ一度読んでほしい。

主人公は、世界から一つでも多く争いをなくし、一つでも多くの命を救うという理想を掲げ、またその理想を体現するために人生を送って生きた衛宮切嗣という男である。一見、少年漫画の主人公のような理想を掲げる切嗣であるがこの男の生き方はそんなきらきらとしたものではない。いかなる状況であっても常に私情を挟むことなく、より多くの命を救うためにもう一方の命を切り捨て、そのためならばどんな卑劣で非情な手段を選ぶことも辞さない。しかしその一方で、人間性を捨てきれず全てを救うことのできない自身の無力さを嘆き聖杯という奇跡にも等しい力に理想を求める、そんな人物なのだ。

理想のためならばどんなに親しい人であっても切り捨ててきた切嗣の生き方は、とんでもなく破滅的ではあるがそれゆえに一種の美しさを感じずにはいられず目を離すことができない。ただひたすらに理想を追い求めた切嗣が最後に直面する現実がもたらす余韻をぜひ楽しんでほしい。

また、Fateシリーズに共通する歴史上の英雄が召喚され戦うという設定も魅力の一つである。この物語では「ギルガメッシュ叙事詩」で有名な古代メソポタミアの王ギルガメッシュや東方遠征を実施し大帝国を築いた征服王イスカンダルなど様々な歴史上の人物が魅力的なキャラクターとして登場するのだが、とりわけ私が好きなのは主人公衛宮切嗣のサーヴァントとして登場し「アーサー王伝説」で有名なブリテンの王アーサー・ペンドラゴンの設定である。この物語の中では、騎士王と名高いアーサー王が実は伝説とは異なり女性であったという設定の下、男装の麗人という言葉がぴったりな美少女アルトリア(アーサーのローマ風表記アルトリウスの女性形)・ペンドラゴンとして描かれている。単にコンテンツ人気を高めるためだけにアーサー王が美少女として描かれているのであればそこまで設定に感動することはなかったが、この物語ではアーサー王の性別逆転設定を絶妙に実際のアーサー王伝説と絡めることで、キャラクターの魅力を引き上げているのだ。物語が進むにつれて、理想の王を目指した少女として生きることをやめたアルトリアの心情や生涯を知ること、多くの人が憧れ、語り継がれてきた英雄譚の裏側にももしかしたらあったかもしれない物語としても楽しむことができる。もともとなった人物や伝説を知らなくても十分面白い、知っていたらなお面白い。この本をきっかけに興味があれば原典を調べてみるのもいいかもしれない。

また、最初にも述べたようにこのFate/zeroという物語は数あるFateシリーズの中の一つであるため、この小説をきっかけにぜひ他の作品も楽しんでほしい。

(スポーツ健康科学部3年 土井美咲)



『 20代で得た知見』

F 著

(KADOKAWA、2020年)

この書評を読んでくれている優しい21歳、22歳のみなさん。大学の先生、職員のみなさん。皆さんが20代で得た知見は何ですか。20代の内に学んだ、たった1つの忘れたい断片を教えてください。

この本は、作者Fがセレブに無名無職、社長、末期癌患者、善人悪人一切問わず「20代の内を知っておいておいた方が良いことは何ですか」と尋ね、彼らの言葉の断片、知見の断片と呼んでもいいのかもしれませんが、それらが183種類以上収録されています。一読しても深いような浅いような、つまり「よくわからない」内容もあり、大切な教訓なのだろうと構えていたら不意をつかれて笑ってしまう。どちらかというと、そちらばかりです。

76番目のエピソードをご紹介します。チロルチョコの法則、社会人一年目の教訓として紹介されています。

「例えば職場でも、ちょっと仲良くなりたけれどちょっと遠い人には、チロルチョコをあげると良いかもしれません。それも、いきなりあげるとよいです。あっ、これ、余ってるんで、などと言って。まず、敵意がないことが伝わります。あと、もしかして、ばかなのかなこの人、と思ってもらえます。GHQかしら、と思われます。笑われるくらいが最初はちょうどよいんです。油断してもらって、何かと都合がよい。3個くらいあると便利です。人に怒られに行く時とかもポケットにチロルチョコを入れておくとうよいです。ポケットにチロルチョコを入れてる私にこの人マジで怒ってるな、くすくす、となります。真夏日はお勧めしません。1人で食べなさい。仮に溶けても、美味しいです。これを私はチロルチョコの法則と呼んでいます。ごめんね、甘党なの。」

このように、時にたわいもない喋りのような文章が200個近くも羅列されているなんて、活字が苦手な人はすぐ眠くなる、あるいは書物に壮大な物語性を求めるような人は、読み終えることはできないかもしれません。でも、手元に置いておいて欲しいと思うのです。

私はこの本を19歳の時に買いましたが、その時理解し難いと感じた断片が今は共感できる、そんな瞬間があります。成長したのか、感

受性が鈍くなっているのか。いずれにせよ、ページを捲るたびに、同じ文章に対して自分が受け取る印象が変化している実感が湧きます。これって、読書の効能とまで言うのは大袈裟かもしれませんが、少なくとも、多分、「よいこと」です。その瞬間を味わって、そして私と共有しませんか。

ここまで読んで頂き、大切なお時間をありがとうございます。他人のお勧めをそのまま受け入れ、良い本だという先入観を持って読む必要はないと思います。とりえず気軽に手に取って、先入観なくさまざまな断片に出会ってほしい、が本心です。私はまだ他人に胸を張って伝えられる、そんな経験や言葉の断片に出会えていないかもしれません。まだまだ、生き足りていないみたいです。でもとりえず、残りの学生生活、私のポケットにはチロルチョコが入っているとします。

(スポーツ健康科学部4年 藤田夏美)



～本をめぐる旅～

日本体育図書館協議会座談会

参加校：

大阪体育大学図書館

東京女子体育大学附属図書館

日本体育大学図書館

日本女子体育大学附属図書館

びわこ成蹊スポーツ大学図書館

野球殿堂博物館

順天堂大学さくらキャンパス学術メディアセンター

2023年6月23日、さくらキャンパスにて日本体育図書館協議会が開催されました。順天堂大学スポーツ健康科学部は今年度の会場校です。

来館数を増やすための創意工夫や、巷の人文系総合図書館では決して経験できない体育学系の専門図書館ならではの不思議な光景についても聞いてみました。

順大さくらQR：本日はご来館ありがとうございます。この静かな図書館を見てお気づきかもしれませんが、貴重な蔵書や最新の話題など揃えても来館者数がなかなか伸びないという状況があります。本日は体育学系の図書館の皆様が一堂に集う貴重な機会でもあります。

「学生たちが図書館をより身近に感じ積極的に使用してもらえるように、日々どのような工夫をされているのか」

についてお聞かせいただけたら嬉しいです！

「図書館に来るきっかけづくりとして、就職や資格取得など見据えたスキルアップセミナーを開催しています。」

「すでに貸し出しがあった本について紹介文をInstagramに掲載したりしています」

「テーマを設定して企画展示を入り口で実施しています。単に本やパネルを並べても効果がないので、図書館脱出ゲーム方式にしてみました。興味を持って図書館に来る！というきっかけになればと。」

「さらに発展して、脱出ゲーム形式の図書館ツアー企画をしています」

「入り口でアロマを炊いたこともありますね。嗅覚から誘う！」

「入場でワールドカップ優勝チーム予想のコーナーを作成してシールで投票してもらっています。」

来館者増に向けた工夫が、次から次へと！図書館脱出ゲーム形式の図書館ツアーはかなり気に入ります。本学なら一階書庫迷宮ルートとか雰囲気ありそうです。

次に、「体育学系図書館ならではのまさかの光景」についてお尋ねしました。

「水泳の授業の後だと思いますが、ビチャビチャの本を返しに来る学生です。上半身裸で。」

「床がカーペットになっているので、気がつくまで静かに柔道の技の練習をしている。」

「床がカーペットなので、授業の合間に床で寝ている。」

「突然、着替えを始める。」

机で突っ伏して眠っている学生は他の大学図書館でも見かける光景かもしれませんが、技の練習に図書館の床をまく見かけはあまりありません。突然着替えを始めるのは、本学でよく見かける光景ではありません。

短い時間で済ませたいが、総会の後でお疲れのころ、快くインタビューを交わして足踏みに登り、もったいないと書いている親さん、濡らしたスウェットを愛用している学生も、本学には珍らしい光景です。



編集後記

ご寄稿くださった皆様、ありがとうございました。また、今回ご協力いただきました体育学系図書館司書の皆様のインタビューでは、本への情熱やユーモアたっぷりの日々の事件簿のエピソード、来館者数を増やすための工夫など、興味深いお話ばかりで、もっと時間が欲しかったのが正直な気持ちです。順大の皆さん、筋肉と同じくらい本も愛しましょう！

学術メディアセンター

2023年6月23日に日本体育図書館協議会総会を、無事開催することができ安堵しております。総会はオンライン参加と対面参加のハイブリット開催でしたので、インタビューには、対面で参加された図書館の方々にご協力いただきました。図書館の様々な活動の一端を知っていただく機会になれば幸いです。

原稿募集！

おすすめの本や映画をぜひ紹介してください。新刊/新作である必要はありません。原稿はWordファイルで作成し、hi-shoji@juntendo.ac.jp さくらクォーター・レビュー編集部(庄子ひとみ研究室)宛に添付ファイルで送信してください。